京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月金二十五錢 ●三ヶ月金 ▲六ヶ月金 ▲郵稅一ヶ月金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢

●陰曆 四月二十四日

發行兼編輯人 印刷人 秋山忠三郎
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

伊藤公の兄弟分(上)

翠山生

▲別に一杯の盞に互の情を罩め合つて、ソンなら兄哥、頼むぜ弟と誓つた譯ではないが、伊藤公の兄弟分ともいふべきは健の長閥の元老、短氣屋の親玉、世話燒きの隊長、井上馨其の人である、彼は世人も知つての通り、ヤハリ長州出身でよく伊藤公と左提右攜して、我が明治の政界に奔走して來た豪ら物である、

▲彼れと公との性格及び趣好はまるで反對で、殆んど極端から極端に走つて居るが、異性相合するの譬へかソレとも互ひに虫が好き合つて居るのか什麼かは知らねども二人が情交といふものは、非常に親密で、得て他の窺知することの出來ぬ程である、

▲所で我が輩が今更に、伊井の兩元老を捕へ來つて殊更らに兄弟分と稱するは、敢て其の兩人の情誼が漆の如く濃く、膠の如く固い爲めからといふのではなく、其の井上侯が明治二十八年頃全權公使として京城に駐劄して居つたときの遣り口が、什麼やら昨今の伊藤公のソレと彷彿した點がある所から、ソレで兄弟分と言つて見たやうな譯合で……

▲二十八年戰役後の漢城駐劄公使……チョッコン面倒な役割である。醉狂や道樂では出來ない、腕の慢いも鈍いも立ろに分る大事な場合だ、未來の外務大臣を氣取つて居る年の若い先生達が、物騷にもゾン／＼腕を鳴らしながら、一番乃公に此の大役を命じたならば、凄い事を遣つて見せるがななどと力味返る譯である、所が人もあらうに、時の政府はわざ／＼井上侯に此の大任を負はした(當時は伯爵)尤も侯は非常なる周旋家でよく、人の面倒を見、都合による臺所の隅迄も干涉する性分であるから、緻密の方からいふと或は假り役であつたかは知らぬが、其の神經過敏の反動として甚だしく怒り易く且つ偏見的であるから、此の大役は決して適任ではなかつた、

▲何がサテ當時の事情は、世人も知つて居る通り、日本が戰勝の餘波に乘じて、一氣呵成に朝鮮問題を根本から解決しやうといふのであるから、餘程明敏なる頭腦と辛辣なる手腕とを有して居る人物でないと、動もすれば遣り損なふ處れがある、尤も其の部下には齋藤修一郎、仁尾惟茂などの逸足の士はあつたが、斯の說とても外務の器としては當時はやはり御多分に洩れぬ方であつた、

▲勿論一氣呵成は侯が公使としての守り本職であるのだが、侯は今の伊藤公の遣り口と同じ事濫りに法令を下し、章典を變にする事に努めた、マツ手近な所をいふと、第一時の韓政府に迫つて、斷髮令を行はしめ、次に彼の長烟管は餘り長過ぎて嘸ぞ不便であらう怪我でもしては困るといふ心配から日本の煙管と同じやうに、短かくするといふことなどを定めたが、唯た宣言的のみで毫も實行が伴つて居らぬから、從つて何日迄經つても成績の擧る氣遣はない、而も侯は豪語して曰く半島の問題にして解決を見ずんば寧ろ異域の鬼と化して南山の半腹に骨を埋めんなど、馬鹿な氣焰を吐いたものである、歷史は繰り返す、丁度今の伊藤公がソレと瓜二つだ、例の長白山頭に其の禿げ頭を埋めんと聲言して居ることが……

▲尤も其の時分は、今とは東洋の形勢も大分異なつて居り、ソレに第一日韓の關係が異つて居つたから今の伊藤公の遣り口とは勿論其の趣を異にして居つたが、マツ大体に於て似たやうなものであつた、併し人が變れば心も違ふ、十人十色であるから、又自ら侯の手際も善い方へか惡い方へかは知らぬがチョッコン機略を逞ふしたことがあるのである(つゞく)

●韓國氣候概況(本年三月の)

本月の平均氣壓は前月に比すれば概ね低しと雖も西海岸は比較的東海岸より稍高く緩慢なる傾度を示せり風向も隨て北乃至西方を占む氣溫は中旬后より冬期の狀態を脫し降水は北東部一帶の地に增加を呈せり之を既往四年に比すれば氣壓は概ね高く風力は西海岸に強く氣溫は南岸を除くの外一般に低度にして降水は北東部に多かりしのみ

▲氣壓 氣壓は滿洲方面に高く龍岩浦は七百六十七粍五城津は七百六十四粍三を示し內陸は其中間にあり之を前月に比すれば一般に一粍內外の下降にして殊に西海岸に著しく龍岩浦平壤京城等に於ては二粍乃至三粍の低落を示せり

氣溫 平均氣溫は釜山の七度一より龍岩浦の水點下○度六の間にありて南部の概ね五度內外にして漸次北進するに從つて低度となり仁川以北は三度下にあり而して各地の最高氣溫は中下旬の間に起り大邱の二十一度三を最大とし龍岩浦の十二度一を最小とす又最低氣溫は概ね中旬前に起りて城津は水點下十五度四元山龍岩浦も氷點下三度に過ぎざりき

降水量 元山の月量は百粍を超へしと雖も其他に在ては五十粍以下にして平壤城津大邱は三十粍內外仁川龍岩浦は十粍以下にあり之を前月に比すれば中部の內陸に減少し其他は增加したり

蒸發量 南岸一帶及仁川元山方面は殆んど百粍の蒸發量ありしも北進すれば稍其量を減し龍岩浦城津は七十粍內外に過ぎざりき

風 上下兩旬に於て風力大に加はり南岸は七日に二十米以上の烈風あり西岸及東北岸は二十九卅の兩日に烈風を起せり概して本月は內陸を除きて暴風の日多く仁川木浦及城津の如きは二十日以上の暴風ありき

天氣 降水日數十日以上に及びしは南部一帶の地方にして釜山の十五日を最とし其他は概ね四乃至八日に過ぎず但し降雪未だ止まず元山城津の如きは尙ほ七八日の降雪を見たり釜山に於ても亦一日の雪天ありし快晴日數は中部以北に多く元山は十三日龍岩浦城津は十一日に達し南部殊に木浦に少くして僅に二日に過ぎざりき日照時數は五十一乃至五十五にして仁川京城附近に最多を占めり濃霧は西海岸に面する中部以北に多かりしも其他の地方に於ては皆無なりし雷雨は龍岩浦元山京城平壤大邱に各一回ありたるのみ(仁川觀測所)

小品文

選者 翠山生

●●●月下の夢● 夏子

夕風はまだ、肌寒き南山の、そゞろ歩きの二人づれ、人目をさけてしのび妻、浮き名をかくす袖さへも、そよ吹く風にさそはれて、仇な戀路を迎りつゝ、君がなさけの玉章に、けふの逢瀬のうれしさを、語る心のあたゝかさ、此のうるはしき眞心を、月はさやかに照すめり、

評、手を取り合つて南山のそゞろ歩き自然主義の季節に入つて來た哩

●●●去年の今頃● 青風生

爆然一發……森として四隣人定まつた十一時頃俄かに消魂ましい音がしたなは嬰兒に乳を飲ませて居つた奴の手を緊と抱き締めながら傍らに書見をして居つた夫の側に寄り縋つた頓て胸の動悸が止んだ頃子ー貴郎今の音は何んでせう今時分此の日本町に暴徒が襲ふて來る筈はなし何所かで烟花でも揚げたのでせうか、わたし那のやうな音を聞くと本統に去年の事が思ひ出されてゾッとしますツ那の時は丁度今頃ソレに此の兒が今生れるさいふので貴郎がうろたねながら隣りのお媼さんを迎ひに行つた留守にイキナリ彈丸が飛んで來て折角仕立てゝ壁に掛けて置いた此の兒の生ぶ着の変の所を突き貫いた時には……、

評、文章に瑕はないが少しく人を動かすに想が足りない

●●●田舍の初夏● 信天翁

夏の初めとなりぬれば樹々の梢も若葉して翠滴る其影もいとゞ涼しき山麓小さき庭の生垣に卯の花下し降り頻り杜鵑さへ音訪れて小田の早苗は靑々と秋の豐穰も忍ばれて蛙啼きつれ螢飛び幼少女が手にさらんと馳せ交ふさまもいとゞれかしげに鄙の住居ぞ心安けき

評、而り生存競爭の甚だしき都大路に住まはんよりは去つて田舍に赴き自然の美を友とすべしだ

小說 新不如歸(十八)

篠原嶺葉著

西脇の宅では十一月三日には百合子が嫁入すると云ふので、當人は勿論、母の樣子も嫂の濟子も、其の準備のために朝から晩まで、殆んど一時の暇もない程の忙しさである

今日も朝から相變らず仕立物などに非常の繁忙を極めて居ると、午後三時過とも思ふ頃、玄關に訪ふ人があつた。

と、百合子は縫ひかけた着物を下にツト起ちながら、

「なんだか忙しいと思つてる故か偶に來る人も例より澤山來るやうな氣がしますのね。」

云ひつゝ玄關に出て見ると、つひに見た事の無い立派な風采の紳士が立つて居るゆゑ淑に一禮した後。

「誰方樣で被在います。」

と問ひかけた。

「足柄と云ふもんですが、西脇君は在宅でせうか。」

「はい、只今歸つた所でございます。何か御用で被在いませうか。」

「はあ、些と御目にかゝつてお話が爲たいですから。」

「畏まりました、少時どうぞ……」

と、側に入つて兄の室に行き、

「兄樣、足柄さんと有仰る方が入來して、貴方にお目にかゝりたいッて。」

「ウヽッ足柄が、シテ家に居ると云ふたのか。」

「言つては惡かつたんですか、知らないもんですから然う云つて了ひましたの。」

「もう家に居ると云つたんぢや貴方がない八疊へ通しなさい」

百合子は再び玄關に出て

「どうぞ此方へ」

「失敬します」

と、足柄は百合子に導かれて一室に通つた

百合子は、褥を進め、烟草盆、火鉢、珈琲などを順次に進めた後、行儀正しく頭を下げて退つた。

入違ひに入つて來たのは西脇であつた。近頃こそ絕て往來も爲ないけれど、士官學校に居る頃は最も親密に暮した間柄だと、足柄の顏を見るより、

「珍らしいぢや無いか、能く訪ねて下れたね。」

と云ひつゝ褥の上に坐つて、

「何年逢んかつたらう。さうだ丁度五年振だ、まづ相變らず御壯健で結構。さあ然う窮屈相に坐らずと、自由にして臭れ給へ。」

と愛相能く待遇せば、

「君も相變らず壯健で結構だ。」

貴公が東京に歸任したのは此春であつたね、して見ると彼是れ一年になるね、僕が參謀部に居る事は能く知つて居ながら何で訪ねて來ないのだ、一度位は以前の情誼があるなら訪ねて來ても好さゝうなものだ、貴公はまだ日外の事を根に持つてるんだらう」

「……いゝや隱し立ても好くないが、……や、一度位訪ねて來ようと思つたが

公が然う云ふ精神で居るなら、僕は大きに考へがある」

と、頭の天辺から出る甲高い調子で底意地惡く言ひ出した

「いや、決して日外の事なんか念頭にもつやうな僕ぢやないが、實は宅を知らんかつたから一度訪ねやうと思ひながら、到頭ツイ訪ねなかつた譯なんだ、必ず惡く思つて下さるな、」

京城新報

朋黨結社を解散せよ

暴徒の跋扈は討伐軍に依りて遠からず鎮定すべし、次で排除せざる可らざるは、排日熱を鼓舞し統監政治に妨害を與ふる朋黨結社なり、其排日熱を刺激するものは直接と間接とを問はず、斷然之を解散して排日思想の波及を制し統監政治の威嚴を保たざる可らず、一進會の如き親日を標榜するものにして尚ほ排日思想を起さしむるの動機となる、其末派に於ては不良の徒多く較もすれば帝國の勢威を肩に着て、良民を威迫するの擧動をなすもの尠からず、故に一進會を忌嫌すると共に日本を怨望するに至るなり地方に於て一進會が蛇蝎視せらるゝと共に排日思想を喚起せしむるなり、親日標榜の一進會にして然り、況や多少排日的意味を以て起れる結社が排日思想の誘起に力あるや知るべきのみ、惟ふに韓國現時の結社は純然たる目的なく、唯單に政權に近接せんとする朋黨結社なり、國民生存の上に於て害あつて益なきものなり、彼等の結社は日々何事をなしつゝあるか、唯類を嫋めて會費徴收の爲に凝議し或は風説を作爲して平地に波瀾を起すに過ぎず、何人と雖も事情を知るものは無用の長物たるに首肯せむ、之を換言すれば一の陰謀團なり、地方に遊説しては人氣に投ぜんが爲に悲憤慷慨の排日説を吐き、巧に費用を誅求するなり、是を以て見るも現存の朋黨結社は概して排日鼓舞の機關たりと云ふも大過なきに似たり。惟ふに韓國現時の狀態に於ては、政治的結社の必要なし、國民智識の程度に於て眞正の政黨なるもの起る筈なし、若し之を寛容せば物質的文明にかぶれたる皮想者流の陰謀機關を助長するに過ぎず、由來陰謀僻にして政權狂なる國民をして益々墮落せしむるに至るなり、斯る機關たるべき結社は決して存在せしむ可らず、假令排日思想を鼓舞せざるとも害ありて益なきものなればなり、彼等の爲す儘に放任して寛容せば、彼等は益々帝國の統監政治を侮るに至らむ、現に或る一派の如きは太皇帝の復位外交權の取戻し抔と勝手なる熱を吹き、排日思想を傳播しつゝあるにあらずや、統監政治の局に當るもの須らく玆に着目して、總ての朋黨結社を解散すべきなり。

昨夏政變の際に於て二三の結社は解散せられたり、其際に於て一進會をも同時に解散せられたりしならば、現今に於る幾多の結社を見ざりしならむ、一進會は前に逃るが如く、其存在が統監政治に間接の惡影響を與へつゝあり、決して惜むべきの結社にあらざるなり、是れあるが爲に他の結社が起り來るなり、一視同認總ての結社を解散して、帝國の威信を保全し統監政治の妨害を排除するは目下の急務なりと知らずや。

●漢城便り

▲北米合衆國が我に對する好信の表彰として韓國に於ける領事裁判權の一部を撤去致候報傳へられ申候若し事實とすれば余輩は半世紀間不渝の親交國の仕打を嘉賞するものに御座候

▲由來米人は宏量にして韓國に就て我に對し極めて寛容の態度を持するものに有之候第一協約前伊藤大使が來韓せらるゝに先ち時の駐韓米公使アーレン氏が在東京なるグリスコム公使と如何なる打合を爲したるかを知らば領事裁判權の一部撤去位は何でもなく否何時たりともソレ以上の事にも米國が好意の認容を爲すは余輩の確信するところに有之候

▲甚だ氣の毒の感に堪ざるは在韓外國宣教師に有之候彼等は眞に東洋人を解せずして東洋人の渦中へ投じ居候併し十字架を目標とする宣教師諸君は如何なる迫害にも困厄にも耐られ候事と存候此上とも誠心誠意韓人の教化に盡力せられんことを切望致候

▲當時某國の爲政者は外國宣教師を眼上の瘤とし彼等を排斥するに自國の宣教師を以てせんことを企てたる事有之候之に引代へ我伊藤統監などは心事公明にして斯る後暗き意志は毛頭有し居られず候に付宣教師諸君は安心して救主の言の如く蛇の如く恰く鳩の如く柔しく振舞はられ候樣希望致候

▲此頃在韓外人間に韓國鑛業法批難の聲揚がれることを及聞申候而しては只り外人間のみならず邦人間に於ても隨分批難の聲あるは事實に御座候何事にまれ八方美人主義は遂に全体より反對を買ふの結果に相終はり申候

▲韓尊日卑は普通學校に於て日々生徒の目撃するところのものゝ由に御座候此は學務上の精神敎育上甚だ好ましからざる次第と存候學部當局の一考を煩し申候

▲滿鐵社債の賣出

路透電報

日本政府の保證ある五分利附南滿州鐵道會社の社債二百萬ポンドは九十八ポンドの價格にて倫敦市場に首尾能く賣出されたる爲めに他の公債發行は不利の影響を蒙れり

▲露都に於る後藤男

後藤男は露淸銀行の晩餐會に於て日露兩國は地理的關係に於て親密なるべき運命を有す日露の親交は列國の利益なりと演説せり（二十三日東京經由）

▲日米條約と韓國

東京電報

日米條約の結果韓國に於ける發明、意匠、商標及び著作等の權利に就ては米國人をして一切統監府の行政裁判管轄に服從せしむる事となれり此の條約は昨日米國元老院を通過せり（二十二日發）

雜報

韓國に於る通信事業（續）

通信管理局長　池田十三郎講演

一通信事業の經營

事業の經營の方法は一般公衆の利害の關係する所最も重大にして當局者苦心の存する所亦た此點に在り抑も通信事業は其本來の性質「世界的にして國境を存せざると」何人に對しても最も「公平なると」「賃金最も低廉」なるとの點に於て其特色を發揮せざるべからず從て之れを國家に於て經營するは自然の數にして尚一歩を進めては萬國聯合を組成し居るの狀態にあれり既に其理由により國家が之れを行ふ以上は公益を主眼として苟も公益の增進するが爲めには其設備運用の爲めに出來得る限り國費を投せざるべからず公衆一般は亦た通信上の利便を增進する爲めに其要望の滿足を求むるも當然の權利なりとす特に韓國の如き我新殖民地に對しては我政策上に於ても日韓共通の經濟上に於ても一層設備の完成充實を急ぐの要ありて國費の損耗を顧みるに違あらず政府の命を受けて經營の任に當るものは固より之れを主眼とし居るも一面に於ては國家財政の點に就ても深き注意を拂はざるべからず是に於てか一般公衆よりする擴張の要望と內部に於ける職員使役人給與を厚ふすること其他の改良の要望等專ら費用を要する點と國家財政の点と常に衝突を惹起し經營の十分なる効果を顯はさゞるは列國何れも同じ歷史を繰り返し居れり殊に近年の我國財政の狀態に於て最も然りとす韓國通信事業の創設も此悲運の期會に際したるを以て出來得る限り內部維持費の節約と深き計畫上の注意とを以て一般利便の增進を怠らず一面には收入と支出の点に特別の注意を拂ひつゝあり

	收入（事業）	支出	過支出
卅九年度現計	一〇四五六三〇	三三九〇六二八	二三五〇四九八
四十年度豫算	一三五四〇一〇	三二〇三八三三	一八四九四二三
四十一年度豫算	一五八六三九六	三二四八一九一	一六六二九三五

以上の內より資本に屬すべき臨時費を除き比較すれば

	維持支出	過支出欠損
三十九年度	一四〇九九七五	三六四三四五
四十年度	一八三九四四	四八四八三四
四十一年度	二〇一七〇五	四三一八四九

●高等女學校開校式　京城居留民團立高等女學校は豫記の如く昨日午後二時より開校式を擧行されたり先づ伊藤統監長谷川軍司令官其他の來賓着席するや熊谷民長は起て始式の辭を陳べ次で生徒一同の君が代の唱歌と共に三浦校長教育勅語奉讀し一同起立最敬禮をなし夫より本答ありて民長の式辭了りて統監の訓諭的祝詞を演べられ生徒總代の祝詞三浦校長の祝辭等ありて終り生徒一同の遊戲運動あり來賓には別室に於て立食の饗應あり父兄には茶菓を饗し至く退散せしは同五時半頃なりし當日の來賓は伊藤統監長谷川大將を始め統監府各高等官軍司令部將校及び兩會議員新聞記者等二百餘名にて頗る盛況なりし

●孤兒院へ下賜金　孤兒院經費窮乏を告げ自然は廢院の悲境に至らんとする由太皇帝には聞召され若し廢院するに至らんか幾十の孤兒は忽ち食を失して路頭に迷ふを寔に愍然に思召され當分毎月金百五十圓を同院に下賜せらるゝことゝなり二十一日侍從吳一泳をして同院に臨ましめ院主李愚濟に聖旨の程を傳達し其五月分金百五十圓を御下賜相成りたり

●警部採用試驗　內部警務局にては警部採用のため各地警察署に在勤せる巡査部長巡査の中判任官たる資格を有する者十名を署長に推選せしめ目下試驗中なりと

●熊谷民長の式辭　別項京城居留民團立高等女學校開校式に際し京城居留民團長熊谷賴太郎氏が陳べられたる式辭は左の如し

高等女學校開校式式辭　閣下並に滿堂の紳士貴女諸君本日當高等女學校の開校式を擧行するに當り統監閣下軍司令官閣下を初め多數の御來臨を忝ふしたるは本校の紀念とし且大に榮譽とする處なり就ては本校開設の經過に付一言報告せんに明治三十八年及四十年に於ける日韓協約締結の結果として居留民の增殖著しく從て學年生徒の增加は亦豫想外なりさず現今第一第二の學校に於て授業せる兒童は千八百餘名にして之れに二個の幼稚園を合するときは實に二千名に達せり如斯小學校生徒の增加するに伴ひ中等教育の階級に達せし男女生徒も亦甚だ尠からざるを以て客年以來尋常中學又は高等女學校設置の問題起りたるも由來中學機關なるものは多くは府縣立にして都市の設立の如きは甚だ稀なり故に本校の如きも之を官立とせんことは固より望む處なるも今や官憲の急務として韓國の指導開發におりて我居留民に對する中等教育機關の設置を企圖するの餘地なきのみならず亦如斯計畫は今日の場合としては我が國家の目的方針にあらざる故に強て設立を希望するの甚だ穩かならざるを信ずるなり然るに我が居留地には明治三十六年京城婦人會の創立後同會の主唱に依りて高等女學會なるものを組織して居留地の女子教育のことに盡力せられたるが漸次生徒の增加に伴ひ經費の都合より三十九年以來本校開校の期に至るまで居留地の有志中村、和田兩君の管理する處なりしも居留地の膨脹に伴ひ到底私人の設立を許さゞるの情況に立ち至り男女子教育の必要に迫りたるを以て我が民團の實力に照し遂に本校を設立するの決心を爲したる次第なりとす然るに學校の敷地に付ては多大の面積を要するも新たに購入するが如きは到底經費の許さゞる處なるより現敷地の使用權者たる永濱關稅總長及丸山警視總監に請ひ其總坪數約三千餘坪の拜借を得たると同時に多くの資金を投じて苦心經營中の日韓食品組の代表者大塚力藏の義氣に依りて營業所及總建物の買上を快諾せられたるを以て七千七百餘圓を投じて假設備を爲すに至りたり而して本校設立企圖の初めより不少援助を與へられたる三浦理事官の御厚意と熱誠なる居留地の輿論に迎へられたるとにより玆に開校の式典を擧行するの運に至りたるは獨り居留地の爲めに喜びとするのみならず統監膝下に於ける民團の當局として感慨措く能はざる處なり殊に三浦校長以下各職員共能く職に忠にして亦生徒に對する甚だ懇切なるを耳にするは最も滿足する處なり殊に本日の開校式に際し統監閣下には生徒訓育の爲め御揮毫の榮を賜はられたるが如き無上の光榮とし感激に堪へざる處なり爾今益々大方の懇切なる援助の下に其の職責を全ふせんことを期す

●志賀氏歡迎會

志賀重昂氏が只に農學者政論家として有名なるのみならず本邦有數の地文學者として學界に重きを爲し居ることは世人の知るところなるが氏今回內地視察の爲來韓せられたるを以て當地有志者實業家早稻田大學校友及新聞記者等の諸氏は此機會を以て氏の爲に大歡迎會を催す由なり因に會場は日本人俱樂部、時日は來る二十七日午後七時會費金貳圓五拾錢にして出席希望者は何人に限らず日本人俱樂部方志賀氏歡迎會幹事へ宛申込隨意なりと云ふ

●三井物產の夜會

新舊支店長交代披露の爲小田柿捨次郎淺野長七の兩氏は一昨廿二日夜ソンタク邸に於て一大夜會を催されたり當夜の出席者は子爵長谷川大將を筆頭として各將官將校小宮參與官高崎男爵古谷國分兩秘書官其他統監府各高等官熊谷民長秋吉會頭其他各實業家李宮相宋農相其他各韓大官各國領事在留英米人等百餘名にして韓軍樂隊の吹奏立食の饗應等あり來賓一同の歡樂を極めて散會したるは午前一時頃なりしと云ふ

●日比野雷風氏　目下滯京中なる同氏は本日三井の園遊會に臨み得意の劍舞を演じ來賓の觀覽に供すべしと云記者は雷風氏が劍光を以て當地の士氣を鼓舞せられんことを望んで止まざるなり

●光濟號の茶話會

目下仁川碇泊中の光濟號に於ては永濱關稅局長の催にて京仁重なる官吏並に新聞記者を招待し茶話會を催たるが頗る盛會なりしといふ

●遂安地方の狀況

遂安憲兵分遣所開設の當時恰も各面共平穩の觀ありしが數日を經て各坊より被害の情報續々として至り賊徒の勢日に益々猖獗を加へ四月下旬には其數約二百五十に達し或は一團となり或は數群に別れて各地を荒掠し一時之が討伐に偵察に忙殺され居りしが五月一日より十日に至る分隊の聯合討伐に依り賊徒は四散滅裂に歸し目下は亦平穩に復し昨今各地より何等の被害情報なきは喜ぶべき事に屬す今や漸く農作の時期なるに農民は賊徒の出沒毎に迫害せられ或は家を燒かれ或は財物を掠奪せらるゝ等一日も安然として安ずる時なく財產は常に之を隱蔽し自らは應急避難せざる可らざる悲慘なる境遇其直接間接に蒙る所の被害の程度は甚だ大ならざるを得ず又昨年以來商工業の萎靡として振はざるも多くは之に原因し郡內數ヶ所の市場は目下非常に寂寞を極めぬ民情は質朴にして從來保守的志想に富むの結果一進會員は勿論高橋者流は容るゝ所とならざりしが近來は日本の兵士の相往來し殊に憲兵駐在する等に依り彼等の見聞を高め多少文化に浴せしもの如く近頃稍々進步せり郡守李承仁は三月京城に往きて未だ歸任せず目下郡主事は種々之を代理せるも僅かに郵便事務と輕易なる民事爭訴のみ取扱ひ其他は殆んど干與せざるものゝ如くにして治績擧らず教育に關しても眞明學校と稱する郡立普通學校一ありしも昨年四月以來休業し目下廢校の觀あるを以て教育の一日も忽にすべからざる所以を說明し之が再興を勸誘せるも學資の出所なしとて耳を傾くるものあるなし又財務に關しては平壤財務署に屬する遂安財務署一ありて此迄の署長は自己の寓所に於て執務し書類等紊亂の噂ありしが客月二十五日更迭し瑞興財務署より徐丙周なる者着任し稍々日語を解し且つ多少近世主義なるを以て眞明學校の事務所を充用し鋭意署員を督して着々事務の整理を行ひつゝあるも納稅の狀況は結稅一ヶ年約二萬數千圓にして毎年十月より翌月迄に全納すべき規定なるも賊徒出沒頻繁なる爲め徵稅に困難し今日迄僅に千二百餘圓の納額に過ぎず又宗教に就ては米人ホールに屬する耶蘇教會一ありて信者約百名を有し日曜日毎に男女數十名教會に集り聖書を誦讀す其他韓人孫茶に屬する天道教一ありて信者約三百名を有し事務所には毎日十名乃至十數名相集まり悠々消日せるは一進會の化身にて多少政治上に關係を有せるものゝ如きも賊徒の勢力強きを以て何等爲す所なく信教に托し一般の耳目を避くるものにあらずやの感なき能はず又郡內には醫師なく隨て衛生思想亦幼稚なるも憲兵の清潔法を勵行せる結果街路溝渠等比較的清潔にして目下何等流行性患者なし但し此地は夏期間は歐性熱病多きを以て今より之が豫防方法を講ずるは最も肝要の事なりとす通信狀態郵便物は瑞興經由とし書留小包は一切取扱はざるを以て之が爲めには一々瑞興に特使を立て公私共日常の用務に大不便を感じつゝありと云ふ

●漢城衛生會用具の入札　漢城衛生會にては京城龍山の衛生設備を完ふするに要する馬車及び荷車百臺塵埃箱約七十其の他掃除用器具一切の購買のため明二十五日（月曜日）警視廳に於て公入札に付する由尚東大門外西大門外（阿峴）麻浦に新設せらる可き糞尿處分場塵埃燒却場の建設も近々公入札に付する筈なりと云ふ

●大韓醫院の運動會　大韓醫院に在勤の職員は本日曜日午前十時より同院附近なる馬東山にて運動會を開催す

●學生團体の來　山口縣山口に設立せる高等商業學校生徒二十九名は修學旅行として教授小豆澤英男に引率せられ二十二日釜山より來り牧野旅館へ投宿せり

●殖產獎勵會の園遊會　高橋服部氏等の組織せし大韓殖產獎勵會は本日南大門外靑蓮寺に於て園遊會を催し韓人有志者數百名を招待する筈なりと

●仁川の就學督促　仁川小學校にては學齡兒童の未就學者二十六名に對し本年三月三十一日發布學齡兒童就學規則に依り督促狀を發せりと

●近事片々

▲宇佐川將軍近々に徒鎭壓に對する陸軍省の意見を齎らして三週間の豫定にて來る

▲司令部及統監府に凝議する爲なりと云ふ將軍態々來る齎す所重要問題知るべき耳

▲米國は日本の保護權に信賴し韓國に於る領事裁判權の一部を撤去するに至れりと

▲是れ素より至當の事なれ共率先して同意を表せられたるを快とす同盟の英は如何

▲觀察使會議々長內部大臣多忙の爲に衛生局長柳猛氏議長たらむと些と辻褄合はぬ

▲多忙の爲に地方官會議に欠席するとは面黑し地方官統率者たる內相の欠席は怪し

▲臨席して議長たるが當然兎角常識を逸せる國而も京城日報の報ずる所僣々不審也

▲暴徒の親方李康年支那を見習ひ日本品排斥の檄文を飛ばす韓人は兎角眞似上手也

▲韓國で日本品を排斥しては忽ち夫子自身が困る猪口才千萬れ韓が茶を沸す也唄做

▲太皇帝復位外交權取戾し杯と亦騷ぎ始めたり夫から夫と能く問題が起る氣魄大平

▲斯る勝手なる熱を吹くのも統監政治が寛容度を過ぎ輕侮の念を起さしむるに依る

▲統監政治の輕侮は帝國の輕侮也決して輕々に看過すべからず威嚴の必要を

▲幾度警告して威嚴保全を說くも當局者更に顧みず聽て片々の言を知る時あらむ

▲併し韓人の虫のよいには呆れ返る太皇復位外交取戾保護國外を脫せんと平然吐く

▲完用猶獨亦統監を訪ひ密議數刻何事を語れるにや完用の腹中見透されて甚面白し

▲局外より見れば元帥の心事あり々々と識まる局に當る統監公に格何と見らるゝや

▲志賀重昂氏二十五日仁川着京城に於て氏が得の觀察談を聞くの日近きにあり樂し

▲志賀氏慶州踐新羅の古都最も面白し氏が地理學的觀察の講話は他の及所にあらず

▲一貫したる日本風景論の如き者を韓國視察にて著述されなば其益する所大ならむ

▲五月場初日荒岩と大の川の取組は面白し大の川絶鬪して大敵と分を取る前途如何

▲綠島と大綠は綠島一氣につらんとし大綠巧に防ぎ機を計で打ちやり美事に勝てり

▲綠島今場所は東方の小結なれど到底續くまじ今場所は矢張怪物玉椿が小結たらむ

▲駒ヶ嶽今場所の取組にて伊勢一寸顎を示せり今場所の伊勢は中々元氣があり相也

▲韓國大治鐵山に邦人豹の親子を生擒す先に子を捕へ之を尋ねに來る親豹を亦捕ふ

▲之に味を占めて大々的虎豹狩を催さん準備中と虎伏す野邊も神州男兒には屁也

제151호 1908. 5. 24.

美人の行衛（二）

関坊

時は今より半歳前、風荒ぶ三冬の夜、往來絶えたる泥峴通り戸々の街燈寒き光りを投げて木枯しの吹く毎に明又滅、時々砂塵を店肆の表戸に吹き付くる樣物凄く、人は正に平和の夢にあれど戸外は宛ら魔神の威を逞くするかと思はるゝなり、斯かる時しも巴城館の前を出で、泥峴を西に、第一銀行橫の変番に、巡査や在ると懼るゝ如く窃かに偸み見て、恰も其の影の見ねざりしに先づ可かりしと云つた樣に足早に行き過ぐる女あり、身には高祖頭巾に深く顔を包みて被布を着けたれば、委しき風采は判らねど華奢な躰軀の風に拂はるゝ被布を抑ゆる手の色飽く迄も白く、指に耀かしき者すら燦め居るなり、伊藤組の前に至りて、ツと立ち止まり、夫れと内を覗いて「車夫さんゝゝゝ」と聲を掛くるだに稍氣急きなり、

斯かる夜は迚も客のあるべきにあらずと、宵の程より店を仕舞ひて一同圍爐裡の側に輪を作して寢に就きたる車屋は、夜更けの今頃已れを呼ぶ者ありとも知らず晝間の疲れもありて安かに通ふ夢路に客も無く商賣運其の車臺もなし、女は重ねて二たび三たび起こしたれども答はだに無きに失望したるらしく、チヨツと足を返して変番の方を顧みたれども夜は漫々として木枯しの外には犬の遠吠だにせざるなり

「車夫さん、車屋さん、」

再び戻りて今度は思ひ切りて呼びたり、其の聲漸く車夫の耳に達したるか一人の壯者は懸とばかり刎ね起きたり、眠たき眼を擦りつゝ見廻せども俄かに戸外の美人の目に入らざるに、此方は僅かばかりの戸の隙間より、其の樣を可笑しと見たれども笑はず

「車夫さん、誠に濟まないが逐い其處迄ですから、直ぐに行つて貰へませんか、少し急ぐんですから、」

と慇懃なり、車夫は下り立ちぬ、戸を少し開けて、これは意外

「逐い其處までゞはないんです、誠に濟まないね」

車夫は寒さに顫へもの、しげくと美人の風采を見守りて較暫らく

「ヘイ、今頃何處までゞすか」

怪しいと思ふに無理あらず、美人は笑みを含んで

「極く近いんです、逐い其處迄です、宅には未だ者起きてる筈ですからね、先が温まる樣にして上げるわね、是非行つて頂戴」

軈て車夫は草鞋を突きかけ、車を出しぬ、美人は木枯と車座を蔽ふて理事廳前を驅け抜け南大門通りより更らに折れて田舎家の橋を北へと行き過ぎぬ、美人の言ふが儘に何處迄もと決心したる車夫は此時更に憐れず疑はず、唯命雖れ從ふて西小門通りに引き返し北へ北へと走り去りぬ、抑も此の美人何者ぞ、而して落ち行く先きは何處ならん

●出齒龜式色情狂

東都に一たび出齒龜出でしより世の中は一きわ物騷なる者に云ひ囃さるゝに至れり去るにても放火狂と謂ひ色情狂と云ひ誠に忌はしき者もありけるものかな然るに我が此の京城に出齒龜式の色情狂ありと聞くに於ては世の婦人達は些と要心すべきなり今其の姓名は姑らく預り置けど旭町一丁目日の出湯附近に年齒三十四五の男あり從來年若き婦人と見れば直ちに其の跡を追ひてニヤりと打ち笑みながら忌らしき素振を見するのみか○○をなすなど間違へば強姦すら仕兼ねまじき者なりと云ふ此の男他の男同志に對しては顔を見るも好まず若し知らずして近く者あれば直ちに逃げ出す癖に街の燈に火の入る頃よりブラリと家を出でゝ四つ角などに佇み居り婦人の通行するを待ちつゝありと其の筋に於ては豫て注意し居れりと云へど氣味惡き男と云ふべし

社告

集金掛　高坂一惠
同　今福利三郎

右社員をして廣告料及新聞代金受領方を取扱はしめ候間同人以外のものには決して御支拂被下間敷萬一御支拂有之候共一切無効に付此段謹告仕候也

四十一年五月二十四日　京城新報社　營業部

●子を思ふ親心　仁川栗木洞の張部昌（一）は過日竊盜罪にて仁川署の手に捕はれ警務署監獄に收監中なりしが張は性來腦病に服役後も兎角此氣味ありしが遂に腦充血にて死去するに至れり依つて其筋にては其死体引取方を張母に申渡せしに母は泥棒の兒とはいへ親心のいかく打悲しみ其日一日は泣き暮したるが翌日より精神に異狀を呈し警務署に暴れ込みて巡査を毆るやら嚙み付くやら監獄に入り込んで此處で我兒を殺したのだなど、此度もなき事を叫び果ては泣くやら喚めくやら始末に終へざるに止むなく張の死体を假埋葬して一先母を歸らしめたるが母の狀態は益々激しく今度は墓に至りて發掘し死体を引摺つて市中を泣き歩く事二回に及びたれば其筋にては今は猶豫ならずと三度死体を取上げて埋沒し重なる警戒を爲し居たなれば母はかくても治らず張の妻女と娘とを伴ひて警部並に刑事宅に暴込みて我兒を返せと喚めき立てゝ立去る樣子なければ精神の病に復する迄止むを得ず母を監獄に取容し治療する事となれりと何處も同じ母の情思へば又憫なるものかな

アサヒビール

●男の面を汚したな　大辯を揚げて當り近所の人を驚かしたる馬鹿男は本町三丁目に居住する小野とか大野とか云ふ破落漢にて遂二三日前大平町二丁目の或る飲食店の酌婦何と云ふに思ひを掛け夢中となつて繁々通ふうちに何も媚習柄さて少しは義理も立てねばならずと小野が云ふが儘に末の約束はなしたるものゝよく能く考へて見れば到底末の見込なしと思ひ小野に向つて愛想づかしの文句を並べ立てたるに性がベランメー肌の小野の事なれば話しも條に聞かざる内に大聲を揚げてやい此の女奴よくも男の面へ泥を塗たなさあ斯う薮棒めに手前なんかに愛想づかしをされちや世間に對して男の面が立たねわよし手前も女だから決して約束は反古にしねなど云つたのはよもや忘れはしまい一度約束をしたからにや男の面を立てる樣にして貰はふせ面さい立て呉れりや器用に緣は切つてやらあと云ふ大騒ぎが始まつたので傍に居合たる者も默然としては居られずまあゝゝと仲へ這入つて其の場は何んとか納まつたが其後二日計り過ぎてから兒分を四五人連て再び談判に向ひ少し計りの手切金を押し戴いたか何うか知らねども當り近所の迷惑一方ならず世間に女は澤山あるものをさてもあきれた男かなと近所の噂取りゝ

●依頼金をチヤバル　本町六丁目の大黑屋に止宿する渡邊松代は去月二十三日賜金通帳百六十圓附込のものを賣却せんとし其の周旋を壽町一丁目の安藤對平（セチ）に依頼し印形をも托せしに對平は京城郵便局に至り現金を受領しながら松代に向つては未だ賣却せずとか現金を受取しことなしとか曖昧のことのみ言つて實は其の金をチヤリ居ること發覺し松代より其の筋へ告訴したりと

●金七圓（拾得）　昨日明治町一丁目に於て金七圓を拾得したる旨彌縄分署へ屆出たる者あり心當りの者は同署へ申出づべし

景品付大賣出
景品總高金壹千圓也
一等金二百圓　貯蓄債券
二等以下略ス店頭ニ揭載アリ空籤ナシ
現金掛賣共金五十錢毎ニ景品券一枚
五月十日ヨリ七月十五日迄
抽籤期日七月十六日弊店ニ於テ新聞記者及景品券持參ノ御方立會ノ上公平ニ施行仕候
和洋雜貨　文房具卸　測量器械
京城本町一丁目（郵便局前）　シノサキ商店　電話六百四十八番

●士を盜んだ科料　南山町二丁目の林田總男の雇人松田熊次郎は壯人より壁土を求むることを命ぜられ去る十四日韓人擔軍を連れて南山公園に至り天滿宮下の土砂三荷を採取する所を看守人に取押へられ昨日南部警察署に於て科料金廿錢に處せられたり

俗謠

逢ひたさに、ならぬ首尾して、逢ひに來て、逢へば辛氣や忘れたことばかり
氣が付きや恥かし亂れ髮（紫）

●强盗　去る二十二日の午後九時頃中部校洞の米漢榮方へ三名の强盗押し入り銀簪二個を强奪し去れりと

●本願寺の日曜說教　長谷川町西本願寺出張所にては本日午後十時韓國靑年會を開き巖開教使の「意に從ふ勿れ」の說教あり午後八時より日本人布教として佐々木開教使の「忘るゝ勿れ心照の鏡」の說教あり

●日曜說教　旭町二丁目日本メソヂスト教會にては本日午前九時聖書研究同十時禮拜木原牧師の「靈界の無政府」の說教あり午后八時より木原牧師の傳道說教あり有志の來聽を歡迎す

●事務員の募集　東京市麻布區龍土町七十三番地普通士商會にては今回全國各地に自宅事務員を募り確實有益なる諸種の新事業を擴張する由にて事務員の業務は至極簡易各自家業の餘暇に從事することを得られ且つ充分の收入あり事務員志望者に對しては最も親切に取扱ひ種々の利益を與ふるとの事なり

家庭と衞生

◎乳を飲ますること

母親が其の兒に乳を飲ます前には乳首を清潔にせねばなりません、新らしい柔かいガーゼか細絲か又は細布の布巾を微溫湯に浸して乳首を洗ふがよろしい、若し牛乳ならば呑み口を其の都度清潔な冷水で洗つて古い牛乳の附着したのを落さねば可けません、それから乳を呑ました後は幼兒の舌を柔軟かいガーゼの類で微溫湯を以て洗つてやることを忘れてはならぬ、乳兒は未だ体質が孱弱い者であるから舌に附いて居る母乳や牛乳が腐敗して夫れを知らずゝゝ嚥み下すと或は下痢を起こしたり或は胃を惡くすることがある、舌を洗ふ時は指頭にガーゼを卷き附けて微溫湯に浸して洗ふのであるが注意して爪を立てぬ樣せねばなりませぬ

●通關業問題　通關業問題に就ては本紙の屢々報導せる如く從來の自由營業規則の實施は遠きに非ざるべきも目下の處

●民團税の滯納者